

# 木材産業における火災の例

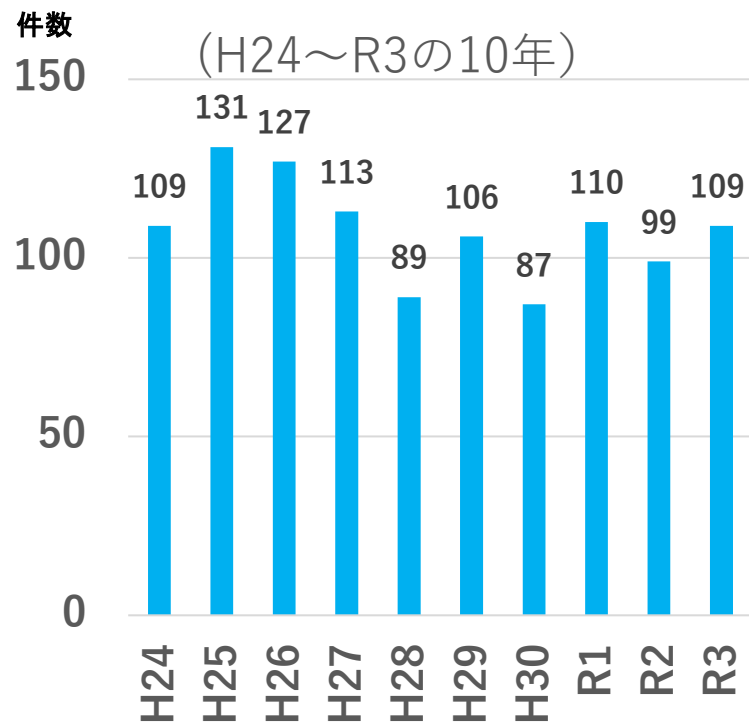
## ■ 最近の大きな火災の事例（報道情報より引用）

年	月	都道府県	業種	被害状況等	原因等
2022年	6月	鳥取	合板製造	鉄骨2階建ての工場約1万7500平方メートルを全焼	機械が稼働していない休業日に、単板の乾燥機に付随するナットの溶接工事を請け負い会社が行い、乾燥機の近くから出火した
	6月	岡山	製材	木材乾燥機を焼失	木材乾燥機から出火
	10月	秋田	合板製造	合板工場棟1棟	単板乾燥機から火の粉が出た後、爆発音がして、木材などに火が付き燃え広がった
	10月	秋田	合板製造	ボイラー付属のチップサイロ一式	発電用ボイラーのチップを貯めるサイロ内で火災が発生
	12月	宮崎	製材	木材加工センター内の木造の製品保管倉庫1棟（約500平方メートル）を全焼	不明
2023年	5月	福井	パーティクルボード製造	従業員1名死亡、3名負傷 建屋約8,800平方メートルに被害	工場内の多段プレス近辺で爆発し、火災が発生
	8月	茨城	製材	製材棟の油圧ポンプ部分から発火、火が工場全体に広がり、製材棟を全焼	製材機械の油圧部分から油漏れし、何らかの原因で引火して火災が発生

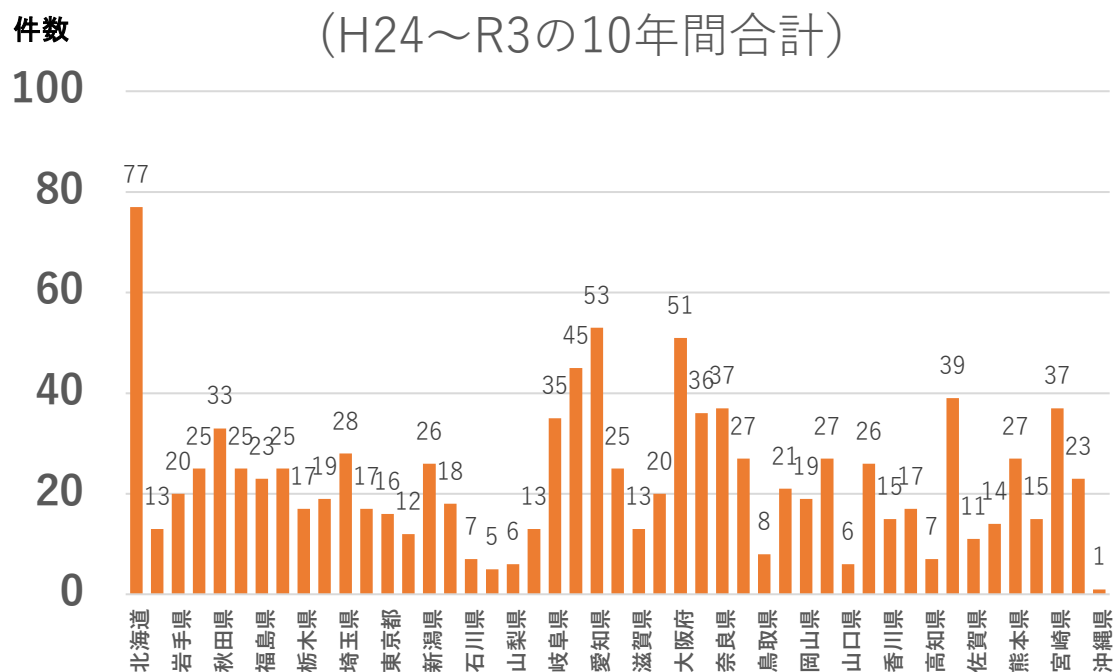
# 木材・木製品製造業における工場火災の実態①

- ・ 木材・木製品製造業においてH24～R3の10年間合計1,080件、毎年100件程度の火災が発生しており、ここ10年ではほとんど件数の変化は見られない。工場火災全体のうち木材・木製品製造業の火災が占める割合は7%程度(R3年実績)である。
- ・ 件数の多い順に北海道(77件)、愛知県(53件)、大阪府(51件)、静岡県(45件)、福岡県(39件)、奈良県(37件)、宮崎県(37件)、兵庫県(36件)、岐阜県(35件)、秋田県(33件)と続く。

## 年度別火災発生件数の推移



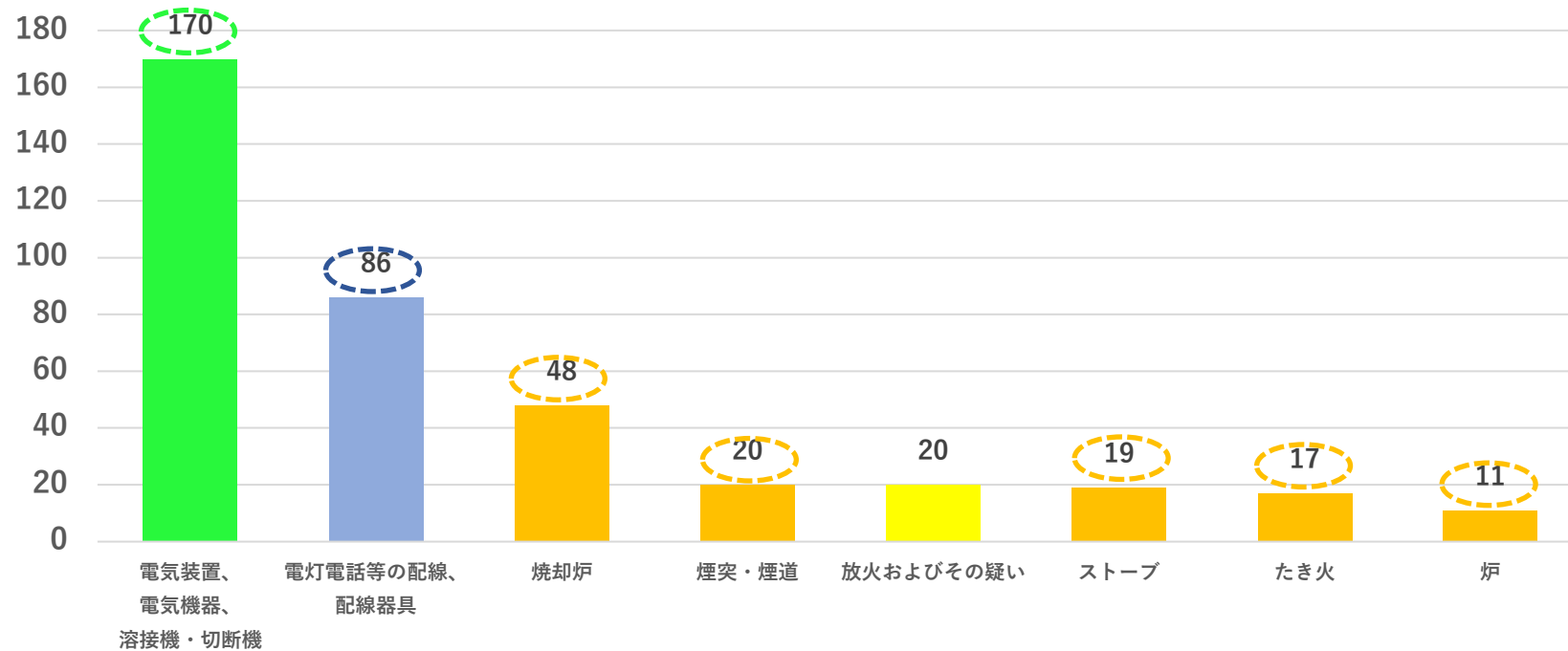
## 県別火災発生件数



## 木材・木製品製造業における工場火災の実態②

- ・ 10年間で1,080件の火災が発生。原因が特定できる火災は431件(40%)
- ・ 最も多いのが、電気装置・電気機器と切断機などの機械類。次いで電灯電話の配線と配線器具などの配線メンテナンス不備であった。その他、直火に関連する焼却炉・ストーブ・たきぎ火・炉・煙突などを原因とする火災も多かった。

### 火災原因の3グループ(上位8要因)



注. 「機器」とは機械や器具などのことで、「装置」とは機械や器具などがある目的のために備えつけること  
「電灯電話線等の配線」とは配電線、屋内配線、コード、器具付きコード、配線接触部等  
「配線器具」とはスイッチ、ナイフスイッチ、自動開閉器、プラグ、テーブルタップ等

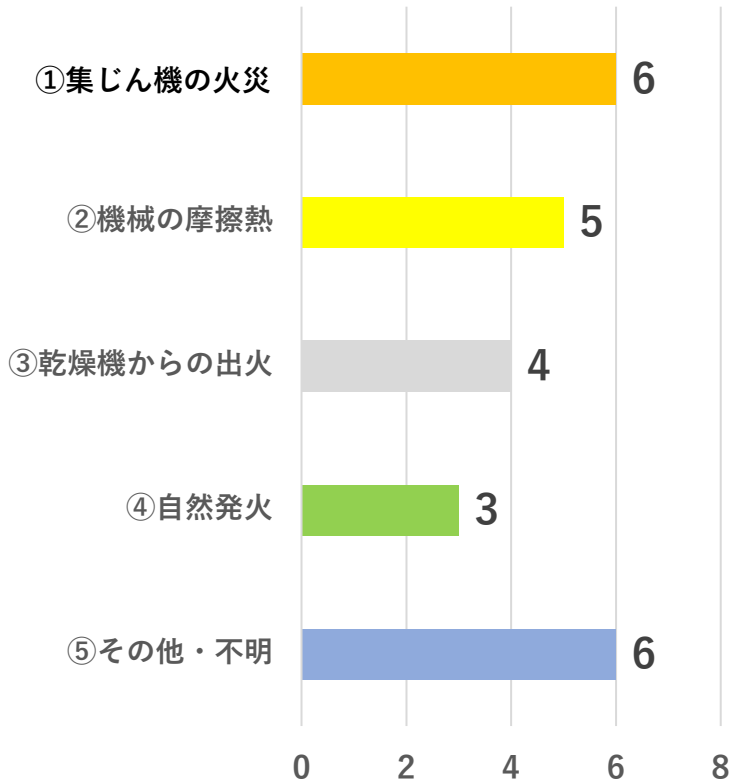
消防庁提供資料を集計

# 木材産業における工場火災実例分析

林野庁に報告のあった火災事故記録24件(R2~R4)について、  
①集じん機の火災、②機械の摩擦熱がおが粉に引火、③乾燥機からの発火、④主にサイロ内におけるチップの自然発火による火災などが典型的な原因として上位を占めた。  
その他として⑤外部業者の溶接修理工事の引火による大災害もあった。

## 火災原因

(R2~R4に木材産業課に報告のあった資料より)



## <具体例>

原因分類	内容例
集じん機の火災	集じん機内の粉じん爆発
機械の摩擦熱	機械の摩擦による発火が生じ、サイロに堆積したチップに引火
乾燥機からの発火	乾燥機内のオガ粉が何らかの理由で発火
自然発火	粉碎したバークが自然発火
その他	メンテナンス時の溶接時の火花から引火